

平成19年4月 13日

新宿区長

法人名 NPO法人コミュニケーション・スクエア
21
所在地 東京都新宿区三栄町17斎藤第2ビル1F
オオツカ キミヒコ
理事長 大塚 公彦

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。
記

1 助成対象事業

事業名	地域活動のためのコミュニケーション力講座
実施日時又は期間	第1回平成18年 8月24日、第2回平成18年9月14日 第3回平成18年10月19日、第4回平成18年11月30日 第5回平成19年1月18日、第6回平成19年2月15日
対象者の範囲及び人数	新宿区内に勤務又は在住の人で地域活動に関心のある人 年齢40代～60代・参加延人数 90人
事業内容	地域コミュニティ再生を念頭に、団塊世代を含めて中高年齢層を対象とした社会参加の機会の拡大とコミュニケーション能力を育成するための講座・交流会を開催。
具体的な活動状況	第1回...NPO日本渚の美術協会会長の本間 清氏 「NPOやボランティア活動への参加と楽しみ方」 第2回...国際ビザコンサルタントの布井敬次郎氏 「異文化を理解し、楽しみの場を世界に広げよう」 第3回...キャリアカウンセラーの木元栄子さん 「マナー・表現・仲間づくりの技法を学んで」 第4回...大妻女子大学の宮田安彦助教授 「あらゆる年代層が元気に活動する地域コミュニティを再生するには」 第5回...月刊「社会教育」の近藤真司編集長 「経験・学習成果を地域コミュニティにどう活かすか」 第6回...日本旅セラピー協会の杉山徹事務局長 「旅を通しての様々な人と文化に触れ合う」
事業の成果	地域コミュニティの再生の大きな鍵は、中高年がいかに地域で活躍できるかということで、その課題解決としてコミュニケーション力の養成を取り上げた。講座では、見聞を広めると共に人と人との繋がりができ、地域コミュニティ再生にとっては、住民同士、住民と団体、住民と行政との協働が大切であることを理解啓発できた。また、講座報告を雑誌に掲載することで広く社会に広めたことも大きな成果である。これを、さらに家庭や親子関係まで深く浸透させることがコミュニティ再生の次なる課題である。

2 助成対象事業費内訳（実績）

内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			231,046 円
	参加費・資料代等	第1回3000×15人・第2回3000×15人・第3回3000×11人・第4回3000×10人+1000×2人・第5回3000×7人+2000×1人+1000×1人・第6回3000×14人+2000円×1人+1000円×3人		226,000 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金申請額		300,000 円
	計			757,046 円
	支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費目	決算額	内訳
会議費		274,075 円	コピー代 52,000 (8/24:9/各 10,000・10/19:11/30:1/18:2/15 各 8,000) 会議費 A 25,200×6 回 = 151,200 (研修会) 会議費 B 4,725×15 回 = 70,875 (事前打ち合わせ会議)	
宣伝費		40,000 円	宣伝・コーディネート代 40,000 (7/17・8/24・9/14・10/19・11/30・1/18・2/15・3/6 各 5,000)	
リース費		31,500 円	備品借用料 5,250×6 回 = 31,500 (プロジェクター・スクリーン借用料)	
消耗品費		13,555 円	用紙代 2,740 インク代 8,190 ファイルなど 事務用品 2,625	
謝礼		120,000 円	講師謝礼 20,000×6 = 120,000	
材料費		0 円		
交通費		65,200 円	@2,820×15 回 = 42,300 @650×2 回 = 1,300 @2,160×10 回 = 21,600	
その他諸経費		55,800 円	郵便代 8,000 報告書作成委託費 5800×6 回 = 34,800 備品材料搬入費 13,000 第1回 3000・第2回～6回 2000	
助成対象事業費（小計）		600,130 円		
余剰金	0 円			
助成対象外事業費	156,916	交流会材料費 (1)15,809(2)10,000(3)11,200(4)22,364(5)12,734(6)22,334 (7)46,725(8)15,750		
事業総額		757,046 円		

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた課題について、どこまで達成できたか。	中高年が充実した第2の人生を送るためには企業や家庭を中心とした人生から、地域の中で活動する喜びを見つけることが必要である。そのために、セミナーと交流会により、まちづくりやボランティア活動に参加するきっかけをつくろうと試みたが、回数を重ね、人間関係が深まったことにより、各参加者が地域参加への意欲を持ったことで、当初の課題はほぼ達成できたと考える。
地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。	地域住民が講座や交流会の企画・運営、当日の会場の準備などで参加したことにより、これまで地域に縁がなかった人が、活動に興味を持ってくれたことや、NPOの活動に関心を持ってくれたことで、さらに、地域に根付いたサービスへの展望が開けた。とくに、全国誌に講座の内容を発表することができたため、他の自治体から協力を求める要請や問い合わせがあり、今後、自治体を越えた取り組みも期待できるものとなった。
新たに気づいた課題は何か。	講座のテーマによって、参加者数に増減が見られ、全体を通してコミュニケーションの技法や技術よりも、具体的な活動の内容に関心を持つ人が多いことに気づいた。したがって、現在の中高年の多くが、自分の興味の対象を捜している段階に来ており、今後、そのような情報をいかに提供していくかが課題であると感じた。
理解者や支援者が広がったか。	講座の受講者だけでなく、ボランティアとして関わった人、講師やその知り合いなど、様々な人が関わったことにより、心のバリアを外し、ユニバーサル社会を築くという団体の活動趣旨を多くの人に理解していただき、次の事業展開がしやすくなった。
事務局の執行体制は十分だったか。	当初役割分担をして、事業を進めたが、交流会の世話をするチームが急逝するなど、一時は多少困惑する部分はあったものの、団体関係者やボランティアの人たちの協力で他姿勢を立て直すことができ、最終的にはよりチームワークのとれた事務局体制をつくることができた。
今回の事業を発展させた新たな事業としてどのような事業が考えられるか。	今回の講座によって、コミュニケーション力の重要性を改めて認識させられたが、参加者は、より具体的な活動内容に関心を持っているために、テーマを絞って、講座を続行したいと考えている。例えば、障害者や高齢者の旅の支援や子どもの健全育成への支援、次世代に日本の文化や伝統を伝える活動。また健康的な食生活を取り戻す活動など。さらに、地域の学校や他機関との連携を探りたい。
その他	今回、コミュニケーションということに真正面から取り組んで分かったことだが、コミュニケーションに特別な技術はいらないということだ。基本的には「共感」できる柔軟な姿勢を持つことだと思う。無理にコミュニケーションを意識しなくとも、柔らかな姿勢と心を開放することで自然に共感が生まれ、コミュニケーションが成り立つ。だから、これからの地域づくり、まちづくりに「協働」が重要になってくるのだろう。「協働」こそ「共感」を生むきっかけを作るものだからである。

4 活動の成果

- * 事業の成果物(冊子など)又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
- * 参加者の意見なども報告してください。

成果物として、月刊「社会教育」に講座の内容を詳しく紹介することができた。この雑誌は全国の役場、社会教育生涯学習機関、施設で読まれており、取り組みの成果を全国に広めることに役立ったと思う。雑誌では5回にわたって連載され、ほぼ全部の内容が掲載されている。そのコピーを添付する事で、活動の成果に替えさせていただく。